

平成30年度科学研究費助成事業の配分について公表しました。

平成30年度の科学研究費助成事業(科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金)について、主な研究種目(※)において10万3,672件の新規応募のうち2万5,796件を採択し、継続分と合わせて7万5,095件に対して約2,118億円(直接経費・間接経費の合計)を配分しました。

また、学術研究の多様性を支え、裾野を広げていく要となる「基盤研究(C)」や「若手研究」(「若手研究(B)」から本年度より名称変更)については、前年度と比較して応募件数が増加しています。「基盤研究(C)」の新規採択率は下がりましたが、両者の新規採択件数は増加しています。

なお、平成30年度からは新たな審査区分表により応募を受け付けたことから、平成29年度までの「研究分野別の状況」については、新たに「審査区分別の状況」としています。

(※) 主な研究種目: 科学研究費助成事業の研究種目うち、「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」(計画研究及び公募研究)、「基盤研究」(特設分野研究を除く)、「挑戦的研究」(特設審査領域を除く)、「若手研究」、「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))」。

区分	研究課題数		採択率(%)	配分額 (百万円)	1課題当たりの配分額	
	応募件数(件)	採択件数(件)			平均(千円)	最高(千円)
新規採択のみ	(101,247)	(25,313)	(25.0)	(64,318)	(2,541)	(141,500)
	103,672	25,796	24.9	62,091	2,407	145,100
新規採択+継続分	(151,734)	(75,563)	—	(162,825)	(2,155)	(172,000)
	153,251	75,095		162,951	2,170	162,400

※配分額は直接経費

※()内は前年度を示す。

※基金研究種目については、平成30年度の当初計画に対する配分額を計上している。

詳細なデータについては、下記のホームページをご覧ください。

- 科学研究費補助金 配分結果 http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1410868.htm

平成31年度ひらめき☆ときめきサイエンスの実施プログラムを募集します。

公募内容、応募方法については、公募要領をご覧ください。

- 実施プログラムの企画の募集について <https://www.jsps.go.jp/hirameki/boshu.html>

公募の概要

1. 目的

- ・我が国の将来を担う児童・生徒を対象として、若者の科学的な好奇心を刺激してひらめき、ときめく心の豊かさや知的創造性を育むこと
- ・科学研究費助成事業(以下「科研費」という。)による研究について、その中に含まれる科学の興味深さや面白さを分かりやすく発信すること
- ・上記を踏まえ、学術の文化的価値及び社会的重要性を社会・国民に示し、学術の振興を図ること

2. 対象

次の項目を全て満たすプログラムを公募します。

- ① 科研費による研究に関わる基礎的な内容をより分かりやすく伝え、科学に興味深さや面白さを抱けるようなプログラムであること。
- ② 小学5・6年生、中学生及び高校生のいずれかが対象であること(対象が重複しても構いません。)
- ③ 実施代表者の所属する研究機関が主催するプログラムであること(学協会や自治体等、実施代表者の所属する研究機関とは別の組織が主催する行事の一部として実施するプログラムは対象としません。)

3. 応募資格

府省共通研究開発管理システム(e-Rad)に「科研費の応募資格有り」として研究者情報が登録されている研究者のうち、過去又は平成30年度現在継続中の科研費の研究課題の研究代表者として研究を実施したことがある研究者(実施代表者)及び当該研究者が所属する研究機関の長とします。



小・中・高校生のための プログラム



KAKENHI

「ひらめき☆ときめきサイエンス」は、科学研究費助成事業により行われている、研究者個人の独創的・先駆的な学術研究の成果を、全国各地の大学、高等専門学校その他の研究機関において、小学5・6年生、中学生、高校生を対象として、研究者自身が分かりやすく情報発信するプログラムです。

平成29年度には、児童生徒の他引率の保護者・学校教員等を含め約9,400名の参加がありました。

○平成29年度に実施されたプログラムの事例紹介

『腸管の動きをくすりを使って調節してみよう！』

岡崎 真理（城西大学・薬学部薬学科・教授）

いろいろな薬を腸管に投与して、薬の性質や薬の量による作用の違いを学ぶことで、薬学への関心が高まりました。



『君のお気に入りの分子の模型を作って学ぼう！—ミクロな物質の世界—』

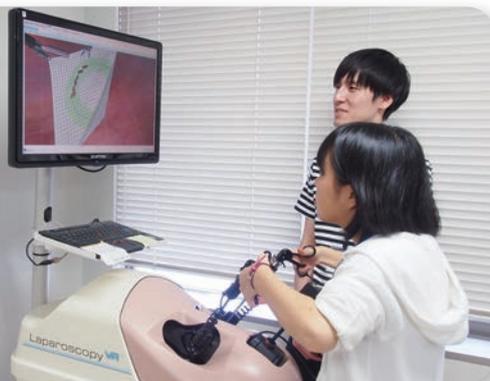
藤井 豊（福井大学・医学部・教授）

自分で分子模型をつくり、化学結合の基礎を学びました。また、新しい機能をもたせた分子を考え、みんなに発表しました。

『外科手術の現在は？ そして将来はどうなるの？』

橋爪 誠（九州大学・大学院医学研究院・教授）

シミュレーターを使って手術の体験をすることで、手術方法の改善点を考えました。未来の外科治療について話し合い、みんなに発表しました。



平成30年度も、夏休みを中心に、7月中旬から翌年1月末までの間、児童生徒が全国各地の152にわたる大学等の研究室を訪問し、実験やフィールドワークなどを実際に体験して、最先端の研究成果を直に見て・聞き・触れることができる278件の訪問体験型プログラムを用意しています。

また、受講を希望する児童生徒が在学する学校やその近隣の学校教員の参観・見学も積極的に受け付けています。

「ひらめき☆ときめきサイエンス」の詳細は、日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス」ホームページをご覧ください。

Q ひら☆とき

検索